

人と人と豊かに生きる



ひょうどう すみこ
兵頭 壽美子

(中原区上丸子天神町在住)

桜の絵が国際親善の架け橋に

「桜を描いているときに、一番幸せ」と、対岸に多摩川台公園の桜を望む自宅アトリエで、楽しそうに語る兵頭壽美子さん(67歳)。学生時代から桜の花が好きで、全国各地の桜を描いてきました。今は、主に自分の中にあるイメージの桜、例えば、旅先のウイーンで聴いた、日本の少女たちの若々しい「さくら、さくら」の歌声を思い出して描くなど、美大時代に学んだグラフィックデザインの技術を取り入れて表現しています。銀座のギャラリーポートを会場に、2005年3月28日から4月2日まで開催予定の個展に向けて、さまざまな桜の油絵を制作中です。

兵頭さんのように桜をテーマに描き続けている例は珍しく、その作品の一枚が、

北京市玉淵公園の記念館に飾られることになりました。それは、過去の戦争への謝罪を込めて、中国で桜の木を植える活動をしていたある日本人男性が、桜の絵を専門に描いている兵頭さんの存在を知ったことから実現したものです。

出会で広がるネットワーク

静かにキャンバスに向かう兵頭さんですが、性格はとても陽気で気さく。中原区内の商家の生まれで人の出入りが多かったこともあり、小さな頃からものおじしない子どもだったそうです。そのため交友関係がとても広く、薬師寺の故高田好胤氏や、川崎ゆかりの故岡本太郎画伯をはじめ、幅広い分野の人との出会いに恵まれました。特に、一生懸命に黙々と何かをやっている人が好きで、応援し



『桜を愛する会』の古谷さん、鈴木さんと



アトリエ Sumi にて

桜クッキー “思いさくら”

このクッキーにより、基金からの主旨である桜の花を咲かせるお手伝いは続けられています

問合せは アトリエ Sumi へ
TEL/FAX 044-733-1331



たくなる性分とか。桜基金になる商品として誕生した2月・3月季節限定の桜クッキー『思いさくら』も、若い腕のいい美容師さんとその実家の新潟のお菓子屋さんとの出会いから生まれました。このクッキーは、桜の花びらを型どって美しく、しっとりとした味わいです。また、アトピー対応で、無添加のお米を使っています。年々ファンが増え、そこからの出会いも物語にしたいほど。

兵頭さんは、自宅前の多摩川河川敷に植えられた桜を世話する地元の『桜を愛する会』(代表 鈴木眞智子さん)の活動に賛同し、草刈りなどにも参加しています。仲間との桜への熱い思いが、多摩川の土手を美しい桜並木へと育てていくことでしよう。